



**UNITED NATIONS  
UNIVERSITY**

2006年5月26日  
MR/J18/06

メディア用原稿  
非公式記録

国際連合大学 広報部  
〒150-8925  
東京渋谷区神宮前5-53-70

Tel.: 03-3499-2811  
Fax: 03-3499-2828  
E-mail: media@unu.edu  
Website: http://www.unu.edu/

## ボツワナのモハエ大統領講演 2006年アフリカ・デー記念シンポジウム

内容： アフリカデー シンポジウム  
日時： 2006年6月8日（木）（10:00～13:00）  
場所： UNハウス3階 ウ・タント国際会議場（東京）  
主催： 国際連合大学（UNU）、在京アフリカ外交団（ADC）

- アフリカ・デー記念シンポジウムは、国連ミレニアム開発目標とアフリカの持続可能な開発という共通の公約をもとに、在京アフリカ外交団が日本の関係団体と対話する機会を持つ毎年恒例の催しである。
- 2006年のアフリカ・デー記念シンポジウムのテーマは「発展のための手段 ～貿易、投資、ODA（政府開発援助）の果たす役割～」。
- シンポジウムの第1部では、フェスタス・G・モハエ・ボツワナ共和国大統領が「発展のための手段～アフリカの視点～（仮）」と題し基調講演を行い、日本外務省の代表者が「アフリカ開発への貢献～日本の役割～（仮）」と題する講演を行う。
- モハエ大統領は、基調講演の中で、「援助というものが、豊かな国から貧しい国への倫理的義務である、また、NGOよりも政府へ行う方が意義がある、などというのは、実りのない議論である。重要なのは、総合的なアカウンタビリティを確実なものにし、必要としている人に必要な援助が行き届くようにする事である」といった点を強調する。
- 第2部では、「アフリカが貿易、投資、ODAから利益を受けるにはどうすればよいか」という問題について、国連大学のハンス・ファン・ヒンケル学長が議長となってパネルディスカッションを行う。
- 日英同時通訳あり。
- プログラムは、<http://www.unu.edu/africa/africa-day/2006/programme2006.pdf> にて、閲覧可能。（英文のみ）
- 当日の様子は、ウェブキャストでも閲覧可能。<http://c3.unu.edu/unuvideo/?86>

取材をご希望される方は、お席のご用意をさせていただきますので、お手数ですが、6月7日（水）までに、担当者までお知らせください。国連大学広報部、担当：谷野（やの）（電話：03-5467-1311；メール：media@unu.edu）

### 基調講演者、モハエ大統領のプロフィール

1998年に大統領就任。1968年に国家公務員となり、アングロフォン・アフリカ向け国際通貨基金理事代理および専務理事、（1976-1980年）、ボツワナ銀行総裁（1980-1981年）、大統領付き事務次官、内閣官房長官、および選挙管理委員長（1982-1989年）、財務および開発企画担当大臣（1989-1992年）、副大統領（1992-1998年）など、さまざまな役職を歴任。1992年から1996年までは南部アフリカ開発共同体閣僚評議会の議長も務める。サセックス大学（英国）で開発経済学修士号取得、ボツワナ大学から名誉法学博士号が贈られる。

MEDIA ADVISORY